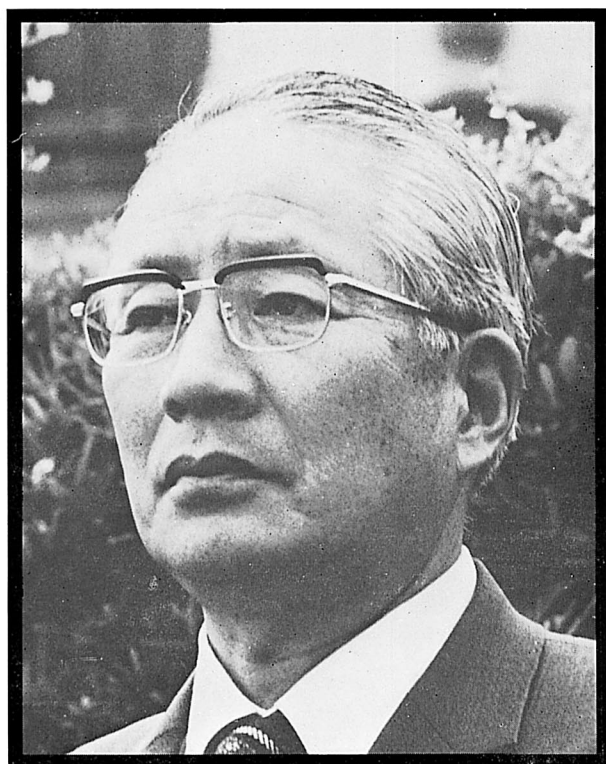




故 山中良知教授

＜略 歴＞

大正 5 年10月 2 日 広島県呉市に山中久太郎氏の三男として出生

昭和11年 高知高等学校に入学

昭和12年 日本基督教会高知教会において受洗

昭和15年 京都帝国大学文学部哲学科に入学。17年 5 月より22年11月まで陸軍に応召シベリヤに抑留

昭和23年 京都大学文学士

昭和24年 後藤五百子と結婚、長男若樹誕生

昭和25年 四国基督教学園・四国学院短期大学に奉職

昭和26年 次男真矢誕生

昭和30年 8 月オランダ・アムステルダム自由大学に留学（翌年10月帰朝）

昭和35年 関西学院大学社会学部助教授、社会倫理学を担当

昭和40年 関西学院大学社会学部教授

昭和42年 関西学院大学文学博士学位論文「理性と信仰」（創文社昭和39年）韓国語訳あり

昭和43年 大学院修士課程指導教授

昭和44年 社会学部長として一年間熾烈な大学紛争の処理に当る

昭和45年 「宗教と社会倫理」（創文社）

昭和46年 8 月オランダ・カンペン改革派神学大学に留学（翌年 3 月帰朝）

昭和49年 K. スキルダー著「キリストと文化」邦訳（すぐ書房）

学校法人関西学院理事 理事長院長補佐

他に神戸改革派神学校、神戸ルーテル神学校講師および京都大学文学部非常勤講師を歴任

日本キリスト教学会々員

日本カルヴァニスト協会々長

日本福音主義神学会理事

日本基督改革派神港教会長老

四国学院理事

関西哲学会会員

国際日本研究所理事

基督教学徒兄弟団々員

昭和52年 6 月 3 日早朝 甲山の山辺にて召天

山中先生の業績（主なもののみ収録）

<著 作>

—著 書—

『理性と信仰』（学位論文・韓国語訳あり）	創文社	昭和39年
『宗教と社会倫理』	創文社	昭和45年

—訳 書—

ヘルマン・リダーボス著「ブルトマンの神学」 （『現代神学入門』（共訳）所収）	聖書図書刊行会	昭和41年
クラス・スキルダー著『キリストと文化』	すぐ書房	昭和49年

—共 同 討 議—

『創世記』（聖書共同研究—山中良知他3名）	日本基督教団出版局	昭和45年
-----------------------	-----------	-------

—論 文—

「自然的秩序と目的論的秩序 —カント目的論の構造と批判—」	（『哲学研究』435号 京都哲学会）	昭和30年
「基督教哲学の可能性についてⅠ」	（『四国基督教教学園論集』第1号）	昭和32年
「基督教哲学の可能性についてⅡ」	（『四国基督教教学園論集』第2号）	昭和33年
「カントの目的論における普遍と 個物の関係について」	（『四国基督教教学園論集』第3号）	昭和33年
「自然の形而上的構造 —基督教哲学序論Ⅲ—」	（『四国学院短期大学論集』第4号）	昭和34年
「時と永遠—基督教哲学の課題として—」	（『哲学研究年報』第一輯 関西学院大学文学部）	昭和35年
“The Law of Nature in Modern Natural Science and the Predestination of God” The Kwansei Gakuin University Annual Studies, vol IX		昭和35年
「危機に立つ理性」	（『論攷』第8号 関西学院大学）	昭和36年
「知識形成の道標」	（『関西学院大学社会学部紀要』第2号）	昭和36年
「基督教哲学成立の原理」	（『関西学院大学社会学部紀要』第4号）	昭和37年
「予定・自由・法則」	（『関西学院大学社会学部紀要』第6号）	昭和38年
「カントと19世紀の社会倫理思想 —倫理的方法的自覚—」	（『関西学院大学社会学部紀要』第9・10合併号）	昭和39年
「アウグスティヌスの『神の国』 における社会倫理の概念について」	（『関西学院大学社会学部紀要』第11号）	昭和40年
「聖書における労働の倫理」	（『関西学院大学社会学部紀要』第12号）	昭和40年
「儒教・蘭学の伝統と近代化の 倫理についての試論」	（『関西学院大学社会学部紀要』第13号）	昭和41年
「聖書における文化の意義」	（『論攷』第13号）	昭和41年

「社会倫理学の基本的問題 —社会倫理と個人倫理—」	(『関西学院大学社会学部紀要』第15号)	昭和42年
「聖書における家族の倫理」	(『兄弟』第151号 基督教学徒兄弟団)	昭和43年
「ジンメル『社会学』における集団の 量的規定と集団倫理について」	(『関西学院大学社会学部紀要』第18号)	昭和44年
「近代化の特質についての一考察」	(『関西学院大学社会学部紀要』第19号)	昭和45年
「ブルトマン神学における歴史的事実と その認識の問題について」	(『兄弟』第164号)	昭和45年
「理性と信仰の問題からみるギリシア 哲学とキリスト教との関係・意味」	(山中良知編著『理性と信仰 —哲学史的考察—』所収 法律文化社)	昭和46年
「儒学・蘭学の伝統と近代化の特質」	(高橋幸八郎編『日本近代化の研究 上』 所収 東京大学出版会)	昭和47年
「聖書における労働の意義」	(『現代とキリスト教小論叢書』第4号 日本基督改革派教会西部中会文書委員会)	昭和49年
「日本人の思惟構造と福音宣教の伝道方法」	(『福音主義神学』第6号 日本福音主義神学会)	昭和50年
「『信仰と生活』について」	(『兄弟』第226号)	昭和50年
「カルヴェンの『キリスト教綱要』における神認 識と自己認識について—有神的神認識論序説—」	(『改革派神学』第12輯 神戸改革派神学校)	昭和51年
“The Dual Structure of the Japanese Ethic,” translated by Dr. Harvey A Smrit, The Japan Christian Quarterly vol, XLIII No. 3 Summer 1977, KyoBunKwan		昭和52年